

# MELON

# 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2012年11月★第100号

## MELON情報紙が100号となりました！

情報紙・'93年7月・創刊号

# MELON

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

発行/みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 編集/みやぎ・環境とくらし・ネットワーク事務局 〒981宮城県仙台市青葉区柏木1-2-47 みやぎ生活文化館内 ☎022-272-5111 FAX022-275-9286

## NEWS NET



### みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)発足

「地球は私たちの一部です」6月5日(環境デー)に仙台市青年文化センターで「みやぎ・環境とくらし・ネットワーク」結成総会が開催されました。地球サミットから一年、行動する宮城のNGO(非政府組織)は、持続可能な共通の未来を目指して、みやぎ生協、JA宮城中央会、宮城県漁連、宮城県森連、日専連宮城県連などが中心になり、学者、弁護士、地球サミット参加者がよびかけ人準備会をつくり結成されました。会員200名と市民グループ等約330名の参加者は、基調講演を加藤陸奥雄東

北大学名誉教授、特別報告を小金沢孝昭宮城教育大学助教授より受け、代表に木村修一東北大学名誉教授を選び「地球と地球環境を考え共に行動しよう」のアピールを採択しました。今後は緑と水と食等のテーマをとおして、ネットワークの機関紙の発行、テーマ別の調査研究活動、シンポジウムの開催、行政への提言を行います。年一回程度の統一キャンペーンを実施し、1995年に環境NGOとしての法人化に向け、個人、団体、グループ等の会員募集を行います。



特別講演  
「環境問題と県内NGOの役割」(要旨)

加藤陸奥雄



生まれたのは、わずかに類が出現したのは更にも現在の人間の社会はありません。地球の歴史にくらべはすばらしい豊かな人

1992年ブラジル・リオの地球サミットを契機に翌年結成したMELONが活動20年目を迎え、年5回発行している情報紙も100号を迎えました。これも活動を支えてくださる皆さんのおかげです。誠にありがとうございます！今後もMELONをよろしく願います！

**MELONとは** 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO(非政府組織)です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

## MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。  
MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
  - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
  - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
  - 年5回の情報紙をお届けします。
  - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

## Index

- P1. 情報紙100号記念 創刊号を振り返る
- P2. MELON20年&情報紙の歴史
- P3. 会員と市民のつどいレポート
- P4. MELONcafe プチ講座  
かんきょう読み聞かせ  
「どうする どうする あなのなか」
- P5. 協同組合からのお知らせ  
50人リレートーク 佐々木豊志さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7. 学生と企業の交流会  
スタジアムの環境体験ブース出展  
MELON版復興住宅の提案
- P8. 投稿欄、イベント一覧、編集後記

# MELON20年間の活動年表

MELONの主な活動履歴を年表にまとめました。多くの方々にご協力いただき、連携してきたMELONの歴史です！

年号	主な活動等
1992年	ブラジル・リオの地球環境サミットを契機に設立準備会結成。
1993年	6月5日 任意団体として「みやぎ・環境とくらし・ネットワーク」結成。 ごみ、緑、食、水等のテーマごとの部会で活動を開始。MELON情報紙創刊号発行。
1994年	宮城県環境基本条例制定署名に取り組む。
1995年	12月21日 財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク設立許可。 MELONバッグ普及運動。
1996年	MELON情報センター開設。
1998年	この年より「MELON環境市民講座」を毎年8～10回開催。 9月にエコアジア市民フォーラムが「環境国際シンポジウム」を開催。MELONが全面協力。
2000年	宮城県より「地球温暖化防止活動推進センター」の指定を受け、「ストップ温暖化センターみやぎ」開設。
2001年	京都議定書の批准を求め、緊急市民集会を開催。宮城県議会、仙台市議会に意見書、請願書を提出。 COP 6再開会合に理事1名・公募市民1名を派遣。
2002年	ヨハネスブルグ・サミットに代表2名を派遣。世界水フォーラム(京都)に代表2名派遣。環境家計簿CD-ROMを使った省エネ普及事業開始。
2003年	創立10周年を迎え、記念イベント実施。Jリーグ・ベガルタ仙台と協同で仙台スタジアムのごみ減量に取り組む。 地球温暖化防止活動推進員研修事業を開始。
2005年	プロ野球・楽天イーグルス、プロバスケット・仙台89ERSのホームゲームでもごみ減量に取り組む。 「100万人のキャンドルナイト」と連動したコンサートを実施。CSOラーニング制度によるインターン生の受け入れを開始。
2006年	都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会の代表幹事に就任。 ZEPP Sendaiにプロミュージシャンを呼んでの環境コンサートを主催。
2007年	地域の温暖化防止の取り組みを募集した「エコdeスマイル コンテストin みやぎ」を開催。
2008年	経済産業省「住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金」事業の窓口団体となる。
2009年	ストップ温暖化センターみやぎ10周年キャラバン「ツバルから考える地球の未来」を実施。
2010年	環境省より「東北環境パートナーシップオフィス (EPO 東北)」運営業務を受託。
2011年	東日本大震災に際し、宮城県知事と県議会議長に「宮城県震災復興に関する緊急提言」を提出。
2012年	2月1日、公益性の高い公益財団法人に移行登記。「公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク」として再スタート。 リオ+20に代表2名を派遣、「津波被災地からのメッセージ」英文パンフを配布。

MELON 誕生！

法人化！

当時は先進的だったネットによる情報発信！

当時、市民運動の大きなムーブメントとして注目を浴びる！

全国で初めてのNGOによる温暖化防止活動推進センターの誕生！

プロスポーツとのコラボレーションの実現！

プロミュージシャンとの連携！

地域の取り組みの発掘！

公益財団法人に移行！

## 「100号に寄す」

情報紙センター長 石垣 政 裕

創刊のころも、いまま「手づくり」であることには変わりありません。

大型で、これでもかと記事がびっしり詰め込まれていた時期はワープロで作られていたような気がします。そして、読みやすい紙面をとA4になり、写真も増えました。私はもっぱら記事を書くだけですが、編集者の「汗」がその形態からも見えてきます。

環境を見つめていく人たちにとっては情報を伝え合うことがとても大切です。社会的であれ、嗜好であれ、立場は違っても認めざるを得ない情報をも、会社に学校に家庭まで、心にとどくように伝えようと努力をしてきました。

時代が変わり、コンピュータのさまざまな編集ソフトも手軽に使えるようになりました。デジタル写真はネットワークを使えばピューッと飛んでいきます。最速の記事はホームページにまかせました。でも、「手」づくりで、「足」をつかって、「顔」の見える記事を一生懸命かんがえていこうと思っています。100号は私たちの『決意』です。



## 第17回MELON会員と市民のつどい 「これからの暮らしとエネルギー～未来へ私たちができること～」開催

日時：9月29日（土）13:00～16:30

場所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

内容：■ステージ 維持会員総会、リオ+20報告会

記念講演「これからの暮らしとエネルギー～未来へ私たちができること～」

長谷川公一氏（東北大学大学院文学研究科教授、MELON理事長）

### ■ブース

MELON部会・プロジェクト、企業会員・団体会員による活動PRやエコ体験ブース

（出展協力：みやぎ生活協同組合、宮城県農業協同組合中央会、泉・新エネルギー探検隊、株式会社サイコー、株式会社建築工房 零、生活協同組合あいコープみやぎ）

毎年MELON会員や市民のみなさんにMELONの活動を報告したりエコ体験の機会を提供する「MELON会員と市民のつどい」を開催しています。今年のテーマはエネルギー。震災、原発事故から1年半、これから先のエネルギーを考え動き出す時期にきています。

長谷川公一氏の記念講演では、福島原発事故後のエネルギー政策がどう変わったのか、何が今後の課題か、女川原発はどうすべきか、政府はなぜ「原発ゼロ」の決断ができないのか、などエネルギー問題に社会学の観点から切り込んだお話しがありました。その一部を紹介します。

9月に決定した新・国家エネルギー戦略の原文には「過去の延長上にはない、新しい未来を創造する戦略」といった言葉は踊っているが、実質は40年運転原則の再確認という意味合いが強い。「2030年代に原発稼働ゼロ」は努力目標であり、各原発を40年間ずつ運転するという原則で今後の稼働状況を試算すると、新戦略の中身はパブコメを求めた時に提示した3案のうち「2030年に原発15%」案に対応することが分かる。原発ゼロを本気でめざすのかきわめて曖昧である。今後のエネルギー基本計画策定がポイントになる。原子力委員会の見直し議論がどうすすむのかも、今後の原子力政策を左右する大きなポイントとなる。女川原発については、今後も地震・津波が起こる可能性がある上に、原発から60km圏内には仙台市もあり、約200万人という人口が集中しているところは他にはなく、特に危険度が高い原発と言える。そして、「原発ゼロ」の決断ができない一番の理由は、やる気・ビジョンの欠如。電力不足により産業空洞化が加速するという主張もあるが、製造業

の生産額に占める電気代の割合は平均で1.44%であり、人件費や為替コストの影響の方がはるかに大きい。制度や法律も含めて電力改革をどうすすめていくのが根本的な問題である。発電・送電・配電・小売を分離することにより、地域で発電事業に乗り出すことも夢物語ではなく、実際に海外にも事例が多くある。協同組合などの市民のネットワークを活かしてエネルギーサービスを立ち上げることで、原子力のない宮城を作ることができるだろう。

会場からは、「原子力がなくても電気が足りるとのことであったが、私たちが自宅で使っているエネルギーがどんなものであるかを知り、もっと大切に使うことで日本全体の電力消費を下げたいと思う。」との意見もあり、今とこれからのエネルギーについて考えを深めたようでした。

会場からは、「原子力がなくても電気が足りるとのことであったが、私たちが自宅で使っているエネルギーがどんなものであるかを知り、もっと大切に使うことで日本全体の電力消費を下げたいと思う。」との意見もあり、今とこれからのエネルギーについて考えを深めたようでした。

体験ブースでも、省エネ型の暮らしの提案や、小水力発電・バイオマスエネルギーの事例紹介など楽しみながら学べる体験を提供しました。

MELONでは、今後も私たちのエネルギーについて考え、活動につなげていきたいと思えます。



記念講演 エネルギー問題について警鐘を鳴らす  
長谷川公一氏



体験ブース多数、段ボール工作や折り紙など



MELONが作成した環境紙芝居の上演



食のPRや堆肥作り、水の試飲など



木工クラフトで自由に作品作り



# MELONcafe

## MELONcafe プチ講座

9月15日(土) 13:30 ~ 14:30  
「古着をリメイク♪ 布のネックレス作り」

仙台市の生活ごみの中で、布が占める割合は3%ですが、その量は6,087tにもなります。(ごみ減量・リサイクルがわかる本2012より) 布は、着られなくなっても、リメイクしたり、またハンカチサイズに切って、洗



家にある布をリメイクして作りました!

い物の汚れを拭き取る布としても再利用できます。

9月の講座では家にある使わなくなった布をリメイクして、「布のネックレス作り」を行

ました。細長く切った布をロール状に巻き、その間にビーズを挟んで紐を通して作ります。柄や色合いを工夫することで、世界で一つのお気に入りのネックレスができます。作り方はMELON事務局にありますのでお問い合わせください。一人一人の工夫がごみ減量の1歩につながります!

今年も12月にはクリスマス特別講座として、大好評の使用済みのロウソクを使った「リメイクキャンドル作り」を行います。楽しみながらごみを減量していきましょう!



昨年のリメイクキャンドルの作品です

### 今後のMELONcafe プチ講座

- 11月17日(土) 13:30 ~ 14:30  
「アロマのハンドクリーム作り」
- 12月1日(土) 13:30 ~ 14:30  
「クリスマス特別講座☆リメイクキャンドル作り」
- 2月2日(土) 13:30 ~ 14:30  
「着物をリメイク♪ 貝のおひな様作り」



## どうする どうする あなのなか —とおくからながめてみる—

ながいこと一つのことによっしょうけんめいになっていると、いま起きていることが見えなくなることがあります。そんなときは自分を外において考えてみるのもおもしろいのです。ビデオなんかでズームアウトしていくように、見ている立場をどんどん外にうつして行って、とうとう他の人が見ているように想像してみます。

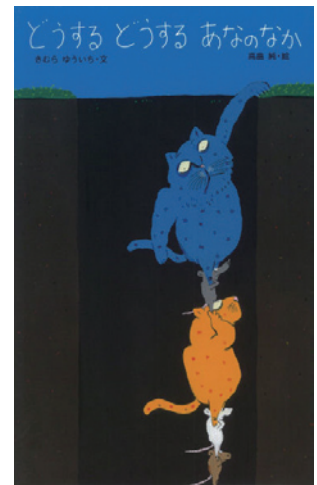
今回は きむら ゆういち・文、高畠 純・絵「どうする どうする あなのなか」(福音館書店、2008年6月)を読みます。

あれれっ、いつもとほんの開きがちがうぞ! 逃げてきたねずみたちがあなの中におこちた。おいかけてきたやまねこたちもおこちた。なにしろ深いあなですから、この絵本はたてに開くんですね。のねずみとやまねこはどうやったら外にでられるか、いろいろ考えます。

どんどん考えます。

ああ、このやまねこたち、ご夫婦だったんですね。「でも あなた、このえさたちも にげられないのよね」というやまねこのセリフがじつによく効いています。それに「ねーちゃんねずみ」が出てくるからのねずみたちはきょうだいだったんだね。

やまねこことのねずみは考えても、考えてもいい考えがうかびません。雨がふってきて、あなの外に出てしまってもまだまだ話しあいが続いています・・・。なんとまあ、たのしい本です。



『「海の健全度」日本は11位』(2011年8月17日付朝日新聞)という記事を見つけたときには「あれ? 私が感じていることちがうなあ」と思いました。国際環境NGOが評価し、有名なネイチャー紙の電子版でも発表したと書いてありますが、みなさんはどう思いますか? ズームアップ、ズームアウト、それから、さっと対象を変える「パン」などとビデオの撮影者になったように考え方をえて自分たちの海を見つめてみてくださいね。



## 各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。



### 『コープフードバンク』がスタートしました！！

食品として安全に食べられるのに、破棄されてしまう「もったいない食品」をコープフードバンクが無償でいただき、福祉施設などへ無償でお届けする事業です。

今年4月にみやぎ生協コープフードバンクが設立し、お取引先様に様々なご協力をいただきながら、多くの皆様方にコープフードバンクを理解していただけるよう努力しております。是非・ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

現在食品提供企業 19社

提供施設等 41団体

法人サポーター 7社



(三菱食品様展示会参加)



(加藤産業様展示会参加)



(東北国分様メーカー説明会)

- ・フードバンク事業は、多くの善意と応援によって支えられる事業です。サポーター企業として賛同をお願いいたします。より多くの方にフードバンク事業に参加していただく意味から、広く、多くの方々へ賛同をお呼び掛けしております。お寄せいただきました賛助金は、提供施設等への配送費用など運営費用及び広報に活用いたします。
- ・法人サポーター：一口 30,000円/年 個人サポーター：一口 1,000円/年
- 《お振込先》七十七銀行 本店 普通預金 9 3 1 1 1 6 5 口座名義 みやぎ生活協同組合
- ・コープフードバンク連絡先 022-290-8070



## MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク



第43人目の執筆者

佐々木豊志さん

(くりこま高原自然学校

代表)

学生時代に野外教育や冒険教育を専門に研究したにも関わらず、80年代は、グローバル経済の波にもまれていました。そんな折、1992年のリオの地球サミットを全国の自然学校仲間や環境NPOやNGOの仲間たちと知ることになりました。あれから20年経過した節目の今年は、私にとっても大きな節目を迎えています。会社を辞める年と決めた95年に奇しくも阪神淡路大震災があり、その年に施設を建設し、96年から自然学校の事業を開始しましたが、その役割も年を追うごとに変化をしてきました。そして、4年半前の「岩手・宮城内陸地震」で被災をし、昨年東日本大震災を経験し、2度の震災を経て私を取り巻く環境がさらに大きく変化しました。そして最近私は、自然学校が取り組んできた「教育」は、生活に直結しなければならないと考えるようになりました。90年代はほとんど耳にすることがなかった「サステナブル」「持続可能な」という言葉をあちこちで耳にするようになり、昨年の3.11東日本大震災をきっかけに多くの国民はエネルギーに関心を持つようになったと思います。

これまでの国民は、グローバル経済を優先とする大企業や政府が向いているベクトルの向きに合わせて、利便性と合理性にだけに目を向けてきたような気がします。私は、持続可能な地域になるには、特に自然環境に近い生業である一次産業が未来へ向けてどこへ向かうベクトルになっているのか知ることが必要だと思います。震災後の今、私は地域の資源として、森林資源を活用した産業と雇用の支援に取り組んでいます。地域の資源としての一次産業を知って、一次産業が健全に持続できる産業にすることを土台に環境教育があるべきだと感じています。多くの国民がもっともっと足元にある資源を見だしその資源を活用するライフスタイルに行動が変化してほしいと願っています。東北の農業のこと、林業のこと、水産業のことを考えると、これまでの政策や企業の論理が見え隠れしています。地域資源が循環する賢い方法をもっと表に出すことがこれからの環境教育の大切な役割だと思っています。

… 次号執筆者紹介 …

唐澤晋平さん

(NPO法人日本の森バイオマスネットワーク

事務局長)



# ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.57

## 涼しさ以外の効果もバツグン！ ～みやぎグリーンカーテンプロジェクト2012～

環境省補助事業として昨年実施した「みやぎ節電プロジェクト2011」。今年は夏場の節電に重点を置き、6月～9月にかけてグリーンカーテンをメインにした「みやぎグリーンカーテンプロジェクト2012」を実施しました。

昨年度コンソーシアムを組んだ、NPO法人環境会議所東北、仙台生ごみリサイクルネットワーク、みやぎ生活協同組合、東北大学大学院教授中田俊彦氏に加え、今年は、シンプル&スローライフの会も参加。心強いメンバーが集まりました。

このプロジェクトの目的は、「グリーンカーテンを設置して、夏場の節電を促すことによりCO<sub>2</sub>を削減すること」です。

6月から7月、宮城県内の小学校（4校）、企業（5社）、仮設住宅（30世帯）にグリーンカーテンと効果測定のための温度計を設置。グリーンカーテンにちなんだ環境講座なども実施しました。

8月、グリーンカーテンの生育に差が出始めていました。原因の多くは、水やり。日の出前、日中、日没後の3回やるのが理想とのことでした。

9月、残暑が厳しかった今年の夏、グリーンカーテンもまだまだ元気でした。現在、回収した温度計とアンケートのデータをもとに、CO<sub>2</sub>削減量の集計を行っています。

設置した方からは、「花が咲いて実になるまでが楽しみで良かったです。」「自分で育てたゴーヤなので、美味しく感じました。」「清涼感はもちろんですが、植物を大切に作る心や癒し効果が大きいと感じました。」などの感想をいただきました。グリーンカーテンには、育てる楽しさ、出来た実を食べる喜び、見た目の癒しなど、涼しさ以外の効果もたくさんあったようです。詳細や結果は、ストップ温暖化センターみやぎのウェブページをぜひご覧ください。



6月 グリーンカーテン育て方講座（仮設住宅）



9月 へちまのカーテンはまだまだ生長中！（小学校）

### 推進員だより No.6

## りふ環境まるごとフェア 2012 へ出展

日時：9月30日（日）  
 場所：グランディ 21 円形広場  
 活動した推進員：塚崎隆夫さん、千葉きえ子さん、  
 吉田美緒さん

震災の影響で昨年中止となった、りふ環境まるごとフェア2012が2年ぶりに復活し、ブース出展を行いました。今年は、一昨年大人気だったアクリルたわし作りと、初出展のうちエコ診断。たくさんの方の来場者にお越しいただき、推進員の皆さんも大忙しでした。地域に根ざしたイベントで活躍するのは、やはり地域で活動する診断員！今後も地域での活動が広がることを期待します！



大人気のアクリルたわし作り



## 「未来につなぐ学生と企業の交流会！ ～数十年後の私たちの未来は!?～」開催しました！

日時：9月10日（月）15:00～17:40

場所：仙台市福祉プラザ

学生が中心となり、企業と環境について意見交換をするイベントを行いました。当日の参加者は60名とたくさんの学生と企業の方が参加しました。

内容は学生が関心を持っている4つのテーマ「自然エネルギー」「エコタウン」「CSR」「食」に分かれて参加者から意見を聞き、どうしたら解決できるかを話し合いました。講座の企画段階で、環境サークルに所属している学生が集まり、役割分担してテーマの背景や問題点の資料を作成し、知識を深めることができました。その資料をベースに当日進行し、学生と企業が意見交換しながら、各グループから今後どのような活動をすれば問題が解決できるかを最後に発表しました。例えば、食のグループでは人口増加や地球温暖化の影響で世界的に食物の供給が間に合わなくなった時のために、企業や団体と協力して畑を

耕し食物を育て1%でも自給率を向上させたいとの意見もありました。

参加者からは、もっと意見交換をする時間がほしいとの声が多く、参加者の意欲の高さがうかがえました。今後は各テーマで話し合ったことをしっかり振り返り、今後連携の可能性をさぐって活動につなげていきたいと思えます。



たくさんの学生と企業が参加しました！

## スタジアムで子ども向けの環境イベント実施

エコシティ仙台プロデュースプロジェクトでは毎年ベガルタ仙台、楽天イーグルスそれぞれのスタジアムで子ども向けの環境イベントを開催しています。

8月7日（火）、8日（水）、9日（木）の3日間、日本製紙クリネックススタジアム宮城で「Kスタ宮城、エコ体験ブース」を開設。例年の自転車発電体験と、正解数に応じてステッカーがもらえるエコ検定、使用済みのロウソクで作ったエッグキャンドルの絵付け体験を行いました。

特にエコ検定は人気で、長時間問題を解くのに真剣になっている子どもたちがたくさんいました。3日間で累計1,096名が参加しました。

10月6日（土）はユアテックスタジアム仙台で「ベガルタ仙台エコ体験ブース」を行いました。正解数によりステッカーや缶バッジ、マイはしがもらえるエコ検定や仙台市ごみ減量推進課さんからお借りしたゴミの分別の啓発ゲーム「ワケルガン

マン」を行いました。さらにエコ検定の5級以上合格者を対象に「エコステーション」での活動を体験してもらいました。最初は小さな声で呼びかけていましたが、次第に要領をつかみ、大きな声で自信を持って呼びかける子どももいました。

今後もエコシティ仙台では環境教育の一環として、子ども向けのイベントを積極的にやりたいと思えます。



ベガルタ仙台のエコ検定のブース

## 「宮城県産材を使用した地球環境に優しい 復興住宅の提案」を発表！

災害復興住宅は、宮城の環境とくらしに大きな影響を及ぼすと考え、MELON版復興住宅の検討委員会を設け、3回の検討委員会を経て、「宮城県産材を使用した地球環境に優しい復興住宅の提案」をまとめました。この提案書では、①宮城県産材を利用した木造住宅の推進を基本とすること、②省エネルギーと環境負荷の低減に貢献すること、③緊急時・災害時のエネルギー確保に配慮すること、④再生可能エネルギーの導入を考慮すること、の4点を基本的な考え方として、20数項目にわたる具体的な提案をまとめています。

この提案の目的は、以下の3つです。

- ①災害復興住宅を建設される方に対し、災害時のエネルギー確保や再生可能エネルギー等の視点や県産材を使用した木造住宅の建設の意義、ならびに環境配慮型住宅の良さを知っていただくこと。
- ②建設に関わる企業に対し、県産材を使用した木造住宅の建

設の意義を周知させ、積極的な活用を促し、環境配慮型住宅の仕様を積極的に取り入れるように働きかけること。

- ③県産材を使用した木造住宅や環境配慮型住宅が多く建設されるために宮城県へ補助金等の支援の拡充を促すこと。

なお、10月23日の第3回みやぎ復興住宅整備推進会議（震災からの復興にあたって、関係機関・団体などが住宅・まちづくりに関する情報の交換・共有を図り情報発信をするための宮城県主催の会議）でこの提案を発表しました。被災された方々が少しでも安心した生活を保てる住宅が、また次世代や地域の環境に配慮した住宅が増えてゆくように取り組んでいきたいと思えます。

「宮城県産材を使用した地球環境に優しい復興住宅の提案」はMELONのホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

100 号の投稿テーマ

「MELON へのメッセージ」

20年間で環境問題はさらに脚光を浴びるようになり、「エコ」は1つのブームとなっています。しかしながら環境問題は一向に解決に向かっていないし、環境活動の重要性はもっと上がって行くと思います!! 頑張ってください!!  
ペンネーム K.S

20年おめでとうございます! MELONの活動のおかげで、環境問題に関心のなかった方も、考え出すきっかけ作りになったと思います。私もはじめは、環境ってちょっと難しいな~と思っていた口です。  
P.N 碓ケンチ

MELONの活動によって環境はどう変化したか、仙台や地域がどう変わったかを検証してほしい。そうすればおのずとこれからの活動が決まってくるのではないかと。  
ペンネーム S.S

投稿募集

101号テーマ

「オススメの冬の省エネグッズ」

湯たんぽや充電式のホッカイロなど、最近はたくさん省エネにつながる商品が出てきていますよね。使ってみて、これは良かった! これは使える! というものを教えてください。

特典

特典投稿が採用された方には、「500円分のMELON協力COOP商品券」をプレゼント♪ (みやぎ生協の各店舗および宮城県内の日専連加盟店で使えます。)



投稿方法

■投稿文とペンネームを明記し、メール・FAX・ハガキ等にてMELONへお寄せください。

ケータイからの投稿はQRコードからご覧いただくことができます。



■締め切り: 12月7日(金)

編集後記

- 今年はMELONで芋煮会を2回行ない、秋の味覚を堪能しました~♪ 今年の冬は雪が少ないといいな! 雪かきが大変なもの... (廣重)
- 今年は川崎で秋の味覚として「鹿肉」のバーベキューをいただきました! 生まれて初めての鹿肉はおいしかったです!! (菅田)
- 「30年代中に原発ゼロをめざしてあらゆる努力をする」とのエネルギー国家戦略会議の結論が閣議決定できず、内閣への参考意見に留まった。財界と核処理施設設置県および米国の圧力に屈したということか。数万単位単位の監視を必要とする危険物を誰が見守るのか?? 我が亡き後に洪水よ来たれ!! あとは野となれ山となれ? か (篠原)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

11/16(金)	自然エネルギー等普及プロジェクトシンポジウム 「災害に強い自立・分散型省エネシステムについて」
11/17(土)	「秋の森で遊ぼう! in 川崎町貸森林」 「MELONcafe プチ講座 アロマのハンドクリーム作り」
11/20(火)	みやぎ里山応援団例会
11/21(水)	「第2回仙臺農塾プロジェクト 新米食べ比べ~違いの分かる男&女になる~」
11/24(土)	「まちなか eco マルシェ」にブース出展
12/ 1(土)	「MELONcafe プチ講座 クリスマス特別講座☆リメイクキャンドル作り」
12/ 2(日)	「環境フォーラムせんだい2012」にブース出展
12/10(月)	食部会例会
12/12(水)	MELON20 周年記念講座 「これからの環境と企業戦略・自治体政策 ーリオ+20から読みとくー」
12/15(土)	「親子で作ろう! エコ・にこキッチン 日本の伝統食おせち料理」
12/22(土)	「化女沼バスツアー ~渡り鳥観察&歴史探見!~ (仮)」
1/16(水)	「第3回仙臺農塾プロジェクト 県南の有機農家に聞く、ホントの話 ~体に優しいごはんと共に~」

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

822名

法人 94  
任意団体 14  
個人 718

2012年9月30日現在



ボランティアポイントカード制度  
をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをする、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON 協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO<sub>2</sub>削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。